

令和5年度 第2回松江市農山漁村地域活性化委員会 議事録

1 日時 令和6年1月26日(金) 13時30分～15時30分

2 場所 松江市役所西棟 5階 防災センター

3 出席者(敬称略)

(1) 委員 (12名中、出席者11名)

小笹 伸一郎、岸本 定朝、渡部 旭、吉岡 伊予、桑原 正樹、古曳 正樹、新宮 紀彦、安部寿鶴子、  
河野 美知、森脇 香奈江、保永 展利 以上11名

(2) 事務局

松浦産業経済部長、大谷産業経済部次長、永井産業経済部次長(農業委員会事務局長)、恩田農政課長、  
寺本農林基盤整備課長、船越水産振興課長、西田商工企画課長、高見農林基盤整備課長補佐、  
平塚農業企画係長、山野主任、渡部副主任

4 次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

第2次松江市農山漁村地域活性化基本計画(案)について

4 その他

5 閉会

5 会議経過

別紙のとおり

6 所管課等

松江市産業経済部農政課農業企画係

電話 0852-55-5225

発信者	議 事
事務局（永井次長）	<p style="text-align: center;">＜13時30分、開会＞</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、只今より「第2回松江市農山漁村地域活性化委員会」を開会いたします。</p> <p>私は、本日、議事に入るまで司会を務めさせていただきます、産業経済部次長の永井と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>本委員会は、松江市情報公開条例及びにそれに基づく審議会等の公開に関する要綱の規定によりまして、全て公開で行います。また、会議録を作成するために音声を録音させていただきますので、ご理解のほどよろしくお願ひします。</p> <p>それから、発言する際は、お手元にありますマイクを使用させていただきたいと思ひます。</p> <p>銀色のスイッチを押してからご発言ください。電源がONの場合、赤色ランプが点灯します。発言後は、もう一度押していただき、電源をお切りください。</p> <p>なお、松尾委員は、本日、所用によりご欠席とのご連絡を受けておりますので、ご報告いたします。</p> <p>それでは、本日の審議会委員の出席状況について、事務局から報告させていただきます。</p> <p>只今の出席委員は、11名で、委員定数12名のうち過半数の出席をいただいております。</p> <p>本委員会規則第3条第2項の規定に「委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。」と規定してございます。本委員会については、過半数に達しておりますので、成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>委員改選後、古曳委員様は初めてお越しいただいております。一言お願ひいたします。</p>
古曳委員	<p>＜古曳委員 挨拶＞</p>
事務局（永井次長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、会長挨拶に移ります。保永会長よろしくお願ひいたします。</p>
保永会長	<p>＜保永会長 挨拶＞</p>

事務局（永井次長）	<p>次に、議長につきましては、本委員会規則第3条第1項の規定により、会長が務めることとなっています。</p> <p>保永会長、よろしくお願いいたします。</p>
保永会長	<p>それでは、議事に入りたいと思います。</p> <p>議事「第2次松江市農山漁村地域活性化基本計画（案）について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（平塚係長）	<p>議事「第2次松江市農山漁村地域活性化基本計画（案）について」説明（資料1～3）</p>
保永会長	<p>資料1から3まであって資料1は概要版ということで作ってあって、資料2が具体的な中身について書かれております。それぞれ方向性、目標、実現に向けた取組について、各分野についてそれぞれ示していただいたところです。</p> <p>資料3は前回のご質問を踏まえて、事務局の方で対応していただいた部分を細かく書いていただいているということで、各コメントに対応しているかどうかもご確認いただければと思います。</p>
河野委員	<p>なるべく簡潔に箇条書きで、見やすく、言葉も少なく、わかりやすくっていう方向性で作っていらっしゃるっていうのはわかりましたが、その分ちょっとさらっとし過ぎていて、これどうだろうっていう箇所が何ヶ所かありました。例えば、主要施策13の「地産地消の推進と観光と連携した特産品の推進」は、私も興味がありますが、学校給食と、あと観光の推進は牡丹のPRに終始しており、なんかもっと農業や水産業の観光の生かし方ってあると思いますがそのあたりはあまり触れられていなかったり、ちょっと簡単に、簡潔に目指されるばかりにちょっとさっぱりしすぎじゃないかなと少し感じます。</p>
保永会長	<p>事務局の方で補足があればお願いします。</p>
事務局（平塚係長）	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>確かに主要施策のタイトルとして「観光と連携した特産品の推進」としている中では現在取り組んでいるような中身しか載っていないようなところもあるように思います。</p> <p>もう1つ別の主要施策ですけれども、25ページ、主要施策としては17番の地域資源の発掘磨き上げとしております。その中に、例えば体験交流施設、実現に向けた取組というところですが、体験交流拠点の推進でありますとか、方</p>

保永会長	<p>向性といたしまして住む地域の魅力的なものを観光資源として活用していきたいと観光に関する部分につきましてはこちらにも載せております。そこら辺と整合性といいますか見せ方は確かに検討するところがあるのかなと思いますので、事務局の方でも、整理はしたいなと思っております。</p> <p>何かこれまでとあんまり変わらないようなイメージもちょっとあったと思いますので、その辺はこれまでとはちょっと違う取り組みといいますかその辺も含めて、示していくのがいいのかもしれないですね。</p>
安部委員	<p>1点目として、いろんな目標指数指標というのが示されていると思いますけれども、まず1つ目は13ページの水産物の目標指標につきましては、向こう令和11年までの目標指標はずっと変わらないという、その他のものに関しては徐々に増えていくというような形で書かれているかと思いますが、この水産物に関しては目標指標としてはずっと同じであるという、何か理由があるのかなということと、もう1点指標として、28ページの鳥獣被害のところの、被害額が、令和5年から令和6年にストンと落ちていきますけれども、それがそのままずっと継続ということで、この辺りの取組とその指標の設定の仕方みたいなところがわかれば教えていただきたいと思います。</p> <p>それに関連しまして、水産物についてですが、実は松江は片句わかめと言って、加工品でもかなり高額なものでブランド化されたものがございます。</p> <p>ところが、板わかめを生産される加工者の皆さんが、どんどん減っているという現状があります。</p> <p>ただ、減っただけで今まで使用されていた機械はそのまま残っているという状況が発生している中で、需要がたくさんあるわけです。</p> <p>板わかめが欲しいという、買いたいという消費者の皆さんは、たくさんいますが、なかなか製造が追いついていないという現状があるというお話をよく耳にいたします。</p> <p>今までされていた方が高齢になり、できなくなってしまう。でも機械はそのまま残っている。そのままにしていればどんどん使えなくなってしまう。何かその辺りへの手立てみたいなのがしていけたら、もっとこの水産物の産出額についても、目標指標が少しでも上がるようなことにならないのかなというふうに思っております。</p>
事務局（船越課長）	<p>水産振興課の船越です。</p> <p>先ほどの水産物の産出額が令和5年から11年まで同じ量だというご指摘だというふうに認識しております。</p>

<p>事務局（寺本課長）</p>	<p>この量につきましては、平成28年から令和2年の平均というところで、41億円というところの額を算出しております。そしてそのまま横ばいになっているというのは、漁業者の方は、年々減少している傾向がございます。それと、漁業というのは環境等によって大きく変わるところもございますので、そういったところを考慮して、今よりも落ちない算出をしていくというところで、令和5年から11年まで同じ算出額というところで目標を設定させていただいております。</p> <p>農林基盤整備課の寺本でございます。</p> <p>私の方から28ページの鳥獣被害対策の目標指標について説明させていただきます。</p> <p>鳥獣被害の被害額につきましては、別に松江市鳥獣被害防止計画というので目標値を定めておりまして、それが令和6年度から408万ということで掲げております。</p> <p>また令和10年度まで終わる金額というのは、近年イノシシの被害が増えておりますけど、その中でできるだけ被害を抑えたいということで、令和6年度からの408万を、令和10年度まで、同じ値で続けております。</p>
<p>事務局（船越課長）</p>	<p>水産振興課の船越です。</p> <p>板わかめの関係でございます。</p> <p>委員さんがおっしゃる通り、わかめに関しては、地域によって高齢化と、あと期間が限られた中での作業する人の確保というのが非常に難しいと伺っております。</p> <p>もともと片旬に限らず、わかめというのが島根半島の大事な加工製品だというふうには思っております。</p> <p>このことに関しても新たに今年度恵曇の方で、わかめの養殖事業をされていくという方もおられますので、その辺についても松江市としても、島根県と連携して、支援をしているというようなところで、高齢化が非常に難しい課題だと認識しておりますので、いろいろ聞きながら引き続き支援をしていきたいなというふうに考えております。</p>
<p>保永会長</p>	<p>安部さんどうですかよろしいですか。</p> <p>わかめはお土産品でもかなり駅の方でも中心的に売られていると思いますので、この中に、あまりないっていうのは確かにちょっと、どこにいるのかちょっとあれなんすけどどうなのか17の方なのかですね、ちょっと17の主要施策がちょっと、確かに何かちょっとシンプルすぎるといえばシンプルすぎるのかもしれないし、もうちょっと掘り下げるところは掘り下げてもいいのかな</p>

桑原委員

というふうに思いました。

宍道湖漁協の桑原と申します。

感想のようなどころでもあるんですけども、まず2ページ目のところですが、SDGsの部分が書いてありまして宍道湖の場合、海なのかな、どうなのかなというところで、調べてみたら淡水域に関しては15番の陸の豊かさを守ろうというところが加わってくるというところで海と川は密接な繋がりもありますし、例えばウナギですと海とかを行ったり来たりしますので漁業に関係するような部分に関しては、14番だけでなく、宍道湖も含めた内水面も淡水域も含めて、松江市の漁場になっていますので、15番も漁業のところには加えてあってもいいのかなというふうに感じました。

続いて、13ページのところで感じたのが、水産物の生産振興というところで、シジミについても、品質向上などをうたっていただいております。その他宍道湖の水産物となるとウナギ、シラウオ、フナとかそういったことがメインの水産物になりますけれども、特にウナギですとかは種苗放流を、松江市さんからも助成していただいております。そうした放流をして、宍道湖で大きくなって漁獲をするというような漁業を行っておりますので、現時点でも、放流事業を行っておりますのでそういったところもこの中に記載されていても良いのかなというふうに感じました。

また、16ページですけれども、スマート農林水産業の漁業の部分ですけれども何か書きぶりが沿岸漁業に限定されているような内容に感じましたので、効率化であったり質の向上というところは、内水面の部分も求められる部分かなと思いますので、こちらの書きぶりは沿岸漁業に限定されなくても良いのかなというふうに思いました。

17ページ以降、環境に配慮した持続可能な農林水産業の推進というところで記載をされていますけれども、それぞれ農業林業水産業でそれぞれの生業の中で、環境にどう配慮するかというところがメインには記載されているのかと思います。

ただ一方で、農業だったら、例えば田んぼでトンボが育ったりとか、蛙が育ったりとか、林にもまたいろんな生き物がおりますでしょうし、水産の分野でも、水産対象種になる生き物だけじゃない他の生き物も豊かさがある初めで、水産対象種になる生き物が漁獲をされるというふうに思います。そうした生物多様性への配慮とか、生業の中で環境に配慮するだけじゃなくて、そこから波及して他の生物に繋がっていくというような視点というのも記載があっ  
ていいのかなというふうに思いました。

21ページのところですがこれは河野委員さんと同じように、私も感じまして、地産地消の推進と連携した特産品の推進で大きい話題なので、林業

の部分だったり水産業の部分というのも含めて書いてあってもいいのかなと思います。

25 ページのところですがけれども、これは私農業の専門家ではないですが、こうした地域資源の伝統野菜の継承とかそういったところも大変大切なことだと思います。

あわせて、これは環境配慮の部分にも関わってくるかもしれませんが他県では、トキが育つお米だったりとか、コウノトリが育つお米だったりとか、自然環境に配慮した農林水産物を大事な地域資源としてPRしていくようなところがあったりするように感じますから、松江市も、SDGs の推進都市を表明しておられますから伝統野菜だけでなく環境に配慮したもののPRだったりとか、検討されてもいいのかなと思います。

最後に 27 ページのところですがけれども、これは多面的事業の部分が記載されてまして、主に農業の部分だと思います。水産業も水産多面的機能の事業がありまして、松江市さんに助成もいただいて、我々は宍道湖で水草の除去作業であったりとか、また小学校3年生を対象にしたシジミ漁の体験活動というのをさせていただいております。今そうやって取り組んでおられますので合わせてここに記載があってもいいのかなというふうに思いました。ざっと読んで感想でございます。

事務局（平塚係長）

いろいろな視点でのご意見ありがとうございました。

前回の1回目の委員会のおきからも桑原委員様から生物多様性の関係のご意見を多くいただいたと思っております。

生物多様性につきまして農業分野でいくと、圃場整備をする上でも生物多様性に配慮していかないといけないということで、別の計画がございます。そういった生物多様性に関わる部分、特に農林水産業はそういった影響は確かに大きいと思いますので、こういった形で記載するか事務局で相談させていただきながら形にはしていければなと思っております。

それと 21 ページの地産地消と観光のところ確かに記載があるのは農業に留まっているので、水産資源と観光と連携した取り組みそういったものもあろうかと思っておりますので、実際すでにやっておられるような取り組みも含めまして、ここに盛り込んでいければと考えております。

古曳委員

森林組合の古曳でございます。

18 ページのところ、我々のやることが出ておりますが、実は、方向性の中の2つ目のところに、「木材生産と森林の持つ多面的機能を将来にわたって発揮」とありますが、業界用語で申し訳ないんですけど、木材生産が入ると多面的機能でありまして、それら除くと公益的機能になりますので、ここで

事務局（平塚係長）	<p>もし記載していただくとするとですね、「木材生産と森林の持つ公益的機能」という形になろうかと思います。</p> <p>それと、下の図の中で、森林の公益的機能の中で水源涵養ということを謳っていただいております。これも我々の業界では、SDGsの6番の、綺麗な水、安全な水というところの分野も関わっているよということで進めさせていただいておりますので、もしよければ6番を入れていただくと非常にいいのかなというふうに思っています。</p> <p>今回計画の方でSDGsのゴールの印を載せておりますが、事務局の方でいろいろ調べたり、想定できるところで書いてある内容でございますので、現場で取り組んでいただいております方々の、ご意見を踏まえ、追記をしていきたいと思っております。市の方もSDGsを推進している部署もございますので、この計画を最終的に出すにあたってはそういった部署の目も通しながら、表現していけたらなと思っております。</p>
吉岡委員	<p>吉岡です。</p> <p>前回の委員会の後から、私の届く範囲ではありますが、私はこういう委員会に参加しています、皆さんからもし意見があれば、私が市の方にお伝えしますということを、出会える範囲の方にお伝えをして意見をいただきました。</p> <p>その中で、スマート農業であるとか、未来の話をするのもすごく大切だけど、過去の歴史であるとかストーリーを残しておくのも必要なんじゃないですかというふうな意見をいただきました。</p> <p>それに関して、私大根島の人間ですので、牡丹であるとか朝鮮人参が、12ページの生産振興農産物に入っていますが、正直今後生産者が爆発的に増えるようなことはないと感じています。</p> <p>今から生産者を頑張るってこの牡丹とか人参に関して増やすよりは、今までどうやってこの牡丹や人参が、松江市の特産物としてあって、どういうふうなストーリーをたどってきたかというのを消えないうちに保存しておくような方に注力された方が、観光資源としても、そういったその市民の声としても理に適っていいんじゃないかなというふうに感じました。</p> <p>もう1点、先ほどから出ている21ページの地産地消の推進に関して、松江市産そばの生産に関して、特記されているんですけども、生産してなおかつ消費されるためにそばの商品化ですとか、松江市産そば、ここで食べられますよっていうところをもう少しPRされると、生産する側としても、張り合いが生まれるんじゃないかなというふうに感じました。</p>
保永会長	<p>いろいろと聞いていただいて、ありがとうございます。</p>



事務局（恩田課長）	<p>そういったそばの消費の場みたいなものも、松江市産そばっていうことで、もうちょっとPRされていくということや、歴史を残していくということですけど、重点推進品目について、市の方から何か補足というかありますでしょうか。そばとか牡丹とか雲州人参も入っておりますけれども、どうでしょう。</p> <p>農政課の恩田でございます。</p> <p>牡丹と雲州人参につきまして、今のうちに、これまでのストーリーの記録を残しておいた方がよいのではというご意見をいただいております。</p> <p>この計画に記載はしておりませんが、これまでも記録はある程度はしてきておりますが、そういったものを21ページに記載しております観光などに生かしていくというような視点で、何か盛り込んでいくことができればと思っております。</p> <p>それとそばの消費につきましては、松江産そば協議会ですとか、松江そばブランド化推進協議会の取り組みによりまして、新たな「松江松平そば」というそばのブランドを確立するような取組を行っておりますので、そういったことにつきましても、21ページの方に加えていくことを検討したいと思っております。</p>
保永会長	<p>雲州人参なんかは畑作ということで、あそこだけでも景観が全然違いますし、そういう景観保全するといえますか、そういった意味で、観光ともう少し連携させて、取り組める部分っていうのがあるのかなと思いますので、もうちょっとそういった部分も考えていく必要があるのかなというふうに思います。</p>
森脇委員	<p>森脇です。</p> <p>私からは2点で、1つは私がかかわらせてもらっている28ページの部分なのですが、有害鳥獣処理施設の先進地視察に関して私もできる範囲で、近隣の先進地の情報を入れてはいるのですが、例えば1000頭有害鳥獣として捕獲されたうちの頑張っても6割がジビエ利活用に戻ってくると、逆に言うとその残り4割が処分しないといけない、その状況が多いということと、さらにその6割の鳥獣達を加工した場合、そのうちの6割がさらに肉になって残りの4割は残渣となって捨てられるということで、この4割掛け4割みたいところは、ほぼその処分になる場所ですね。それはもうデータ上は仕方のないことですけど、処分については、埋設すると他の鳥獣が寄ってきて、例えば熊の誘因になるってこともあるので、焼却を進めていく場合が多いですけど、そうなったときにこの施策上では環境に配慮したというところがあるので、このCO<sub>2</sub>を出すのはどうなのかというのが結構、私の中でも今ずっともやもやしているところで、そうならない方法をどうしたらいいかっていうので、何か堆肥化するところもあったり、あとは減容化という形で、できる限りカサを減らして、その</p>

あと焼却に回すっていうやり方があるのですが、とにかくその最初の初期投資のコストが高いということで、予算の部分と環境の部分っていうところが、どう考えていくかっていうところは、私、民間の人間で1人の意見では何ともならないので、今後ちょっと松江市としてどう考えていかれるのかなというところが1点。

もう1点は別の切り口ですが、夢のあることがいっぱい書いてありますが、現状さっきまで私八雲町にいたのですが、いろんな加工施設がみんな老朽化していると、10年以上前にコロッケを作る団体がいたり、お漬物を作る団体がいたりということで、皆さん元気なときにいっぱいいい施設を作って、衛生許可を取ってやられていたのですが、みんなもう元気がなくなってきてそういう施設をどうしようかって言ったときに、多分本庄の安部さんのとこもなんですけども、食品のルールが変わるタイミングでいっぱいの方が漬物辞められるのかなというので、悲しく思う一方で、ちょっとビジネスチャンスもあるんじゃないかなと。あの人の漬物がおいしいけど、ちょっとした施設の整えとか、表示を見てあげればひよっとしたら跳ねる商品になるなっていうのがあるので、その部分で、ちょっとその施設の改修でしたり、何か助けていただけることがあるのかなと思いつつこの施策を見ていました。

事務局（寺本課長）

農林基盤整備課寺本でございます。

私の方から有害鳥獣処理の件についてお答えさせていただきます。

先ほど委員のおっしゃられる通り、大体4割が処分ということで、松江市としても今後方向性で新規建設の検討に取り組みますと記載しておりますが、その処分の方法についてもあわせて検討していきたいと思っておりますので、またご協力よろしくお願いたします。

保永会長

この17ページの資源循環っていうのが、多分ちょっと松江市内だけだとなかなか難しい部分もあるのでさっき言った堆肥化なり何かそういう形で、もうちょっと何か循環できることがあるのであれば、そういったことも、検討されてもいいのかなと思いますが、現状だとこの17ページは多分、市内ではできないというふうにはなるような気がしますけど。その辺がどうなのかということですかね。

CO<sub>2</sub>を出しちゃうと、ちょっとSDGsから見るとどうなのかなっていうのがありますし、もうちょっとリサイクルにできるのならその方向性はないのかどうなのかですね、ちょっとご検討いただけるといいのかなというのと、あと漬物、結構松江市内、ご家庭でやられている美味しい漬物が多いと思います。

それと、ごぼうとかもそうですけども、健康食材結構多いので、何かまとめてセットで販売するなり何かいろいろ考えられると非常にいいのかなとは思

	<p>っているのですが。他の県だとなかなかお土産品って言うてもお菓子とかが多いですけど、何か松江市内だと、島根県はそうですけど割と、そういう健康食材が結構多く、土産品とかもありますので、なんかもっと機能性とかアピールすればいいのにと思っているのですが。その辺がなかなか、できてないところなのかなというふうに思っています。</p> <p>加工施設は県内でも、結構辞められているところも増えてきているので何か上手い活用方法を考えていく必要があるのかなというふうに私も思っております。</p>
事務局（恩田課長）	<p>農政課の恩田でございます。</p> <p>漬物の製造許可が必要になって、食品衛生法が改正され、令和6年6月から効力が発揮されるということで、これまでご家庭で作っておられた方も、引き続き施設を改修して許可を受けないと、続けていくことができなくなったということで、令和5年度の松江市とJAさんとお金を出し合って作っている協議会の事業で、少額ではありますが、施設を改修される方への補助事業を実施したところでございます。</p> <p>ちょっと令和6年度の事業につきましては、まだ今検討中でございます。</p>
安部委員	<p>道の駅本庄の安部です。</p> <p>26 ページに、暮らしを支える環境づくりということで、移動販売を記載していただいております。</p> <p>道の駅においてもこの移動販売しておりますけれども、方向性の一番下に移動販売等の取り組みが必要な地域の支援の拡充に取り組みますと書いてあって、下の実現に向けた取組のところでは、下から2番目に、支援の必要な地域の掘り起こしで終わってまして、できればその支援の拡充に取り組みむということであれば、掘り起こした後に「サービスを提供できる事業者へつなぐ」というような、何かその先がないと掘り起こして終わっただけでは、拡充にはなかなかならないのかなというふうに思いました。実は私たちもその移動販売車を持っておりますけれども、支援の必要なところが出てくれば、当然行ける範囲のところは検討していきたいと思っておりますし、そうなれば、雇用の創出も図れるのかなというところもありますので、次のところへつなぐということがあると、支援の拡充に向かうのではないかなというふうに思いましたので、もしできれば少し文言を増やしていただければと思います。</p>
事務局（平塚係長）	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに方向性と具体的な取組とその辺がちょっと中途半端な書きぶりになっておりましたので、具体的に実現に向けた取組で、掘り起こしで止まっては</p>

いますけど、想定ではその先も見据えた気持ちでこれを書かせていただいています。実際、岡本営農組合の写真もつけておりますけれども、農業に関わる方々がその地域を支えるための農業以外の取組に対してという切り口で、補助金で支援させていただいております。こういった地域は、今後も増えるといった危機感を持っておりますので、そういった意味で、例えば社協さんとか民生委員さん、そういったところとの繋がりもありますので、また市の福祉部も含めまして、そういった地域の声、そういったところの情報を、市の中でも共有しながら、施策としてつなげていければなと思っております。書きぶりにつきましては、修正させていただきたいと思っております。

渡部委員

渡部です。

ちょっと場違いですけども、先ほどもありました、イノシシの、捨てるとか、そういったものを非常に農業の方に活用できないのかなっていうのはありますが堆肥化するって結構お金もかかるのかなと。

最近、竹矢の方の鶏を飼っている生産者に聞きますと、鶏って結構何でも食べると。うちの野菜残渣も、その鶏が食べてくれていますが、1つ鶏を噛まして堆肥化するとか、何かそういったことができないかなということと、あともう1つはなんか漁業の方にも、養殖のえさとしてとか、何かそういったのができないのかなと全体をぐるっと回すような、ことができれば非常にいいのかなとは思っています。

それと、うちもスマート農業やっていますが、人の管理よりは非常にミスも少なく、非常にいい形では動いています。なぜ進まないのかなっていうところですね。もっと何かPRするべきなのかなとは思っています。

あとJ-クレジット制度。非常に興味がありますが、これ自体、いまいちよくわからないところがあるので、一般にわかるような周知ができればいいかなと思っております。

事務局（平塚係長）

スマート農業につきましては、安藤農園さんでは環境制御システムを施設園芸で利用していただいております、当初から費用対効果が非常に高いということで、導入の効果が出ているというお話を聞かせていただいております。

スマート農業全体でいいますと、施設園芸以外に、水田での水稲用の機械であつたりとか、畑地での機械とかありますけれども、農業の営農のスタイルや何を作るかによって、機械の金額や規模、費用対効果を見て導入したらいいかっていうのは、まちまちなところございました。スマート農業が普及していないのではいったところにつきましては、生産者だけではなくて行政もまた支援する関係機関も、どういった技術があつて、どういったところに提案していくと使ってもらえるのか、今後は、導入支援事業をより活用してもらえよう

に、研修会やメーカーを交えた実演会を検討しておりますので、そういった機会生産者も知っていただけて理解してもらって、行政関係機関もしっかり、理解をして、連携して普及には努めて参りたいと考えております。

J-クレジット制度につきましては、グリーンカーボン、ブルーカーボンとございます。

松江市は、脱炭素先行地域に環境省に選定いただきました。環境エネルギー部が中心となって再生可能エネルギービジョンを作っております。そういったところにも、J-クレジットですとかブルーカーボンといった取組を書いておりますので、部を越えて、松江市として脱炭素、カーボンオフセットに向けての取組を進めて参りたいと思っております。

保永会長

施策⑨ですけれども、なんかイメージ図は、ちょっとあれなんですけど、もうちょっとなんか農林水産業がうまくこう、連携してという循環のほうがいいのかなと。これはちょっと何か一般的な耕畜連携の図になっていますので。松江市のもうちょっと特徴というか、資源循環、なんかそういう仕組みづくりみたいなものがあればいいのかなというふうに思いました。

小笹委員

小笹と申します。

先ほど鳥獣のところ森脇さんと渡部さんがおっしゃられましたが、僕ら、かご漁っているものをやっています。僕らは加工品も作っていて加工品の廃棄物っているのはそのえさになっています。

肉であれば、多分対応可能なのかなというふうにも思っているのですが、本当、先ほどおっしゃられたように資源循環として、処理が可能なのかなというふうにも思っているし、試してみる余地はあるのかなというふうに思います。

あと主要施策⑤のところ、定置網事業者が松江いわがき養殖を副業する取り組みを推進しますというふうに書いてありますが、先ほど、安部さんもおっしゃられた通り片句わかめがってという話も出ていて、ここに書いてあるアワビだったり、わかめだったりっていう養殖業というのは、基本的には定置網の副業としても、成り立つのではないかなというふうに思っています。担い手のところで言うと、ほとんどの入口が定置網から漁業者は入ってきています。定置網で研修を2年積んで、新規漁業者として、個人の漁業者となって行くというルートがもうできてきてはいますが、その支援っていうのがあくまで定置網2年終わってしまったらもう個人に移らない限り支援が継続できませんということだったりとか、そのまま定置網残り続けたいっていう方も結構おられます。僕らのところではほとんどがそうで、むしろ副業の方にやりがいを見いだしたりだとかそういった多様な働き方ができるっていうことに興味を持

って僕らのところに飛び込んでくれる人も増えています。そういったところで個人の漁業者にしか支援がないよっていうところになると、やっぱりこういうイワガキだったり、養殖栽培漁業に関しては飛び込みづらい環境になってきているのではないかなというふうに思っている現状です。

またそういったところが、そういう施設が増えたりだとか、提供できる場所が増えると観光の方にも多分繋がってくると思うし、体験っていうことも、前回も言わせていただきましたが、農業も漁業もそういった体験だったり、できるっていうことが多分、一般の住民の方っていうのはすごく、島根に来てやりたいこと松江に来てやりたいことの1つになるのではないかなというふうに思っていて、そういった観光的な資源も多分1次産業には、中には入っているのではないかなと思っていて、定置網に従事しながら、できるスタイルっていうのも、1つスキームとして加えていってもいいのかなっていうふうに思うし、個人で漁業をやらないと、支援しませんよっていうスタイルじゃなくて、長期的な目線を持って、副業としてやりながらそれが主業になるように、支援していくことも1つなのかなっていうふうに思いました。

事務局（船越課長）

水産振興課の船越です。

先ほど委員さんから言われた定置網漁業を、最初に新規に入って、そのあと個人でやっていく方、そのまま定置網に残って、就業していくかという2つパターンで現在行っておられるというのは認識しております。

その中でまず1点目が、新たにそのまま定置網に残って就業していくというところの中で、1つの支援策として、その中で漁業権正組合員になられた方については、3年間の間で、新たに漁業するという支援策というのは、市の方では設けております。そういったところで、最初にやる方は、今のそういった制度を活用していくという方法も1つございます。

それとあともう1点、定置網の副業につきましましては、今ここには例えば松江いわがきをここに記載しております。普及につきましましては、いわがきだけではなくて、その他いろいろこれからまた海面養殖とかそういったところでも、また4月から法も変わりました、民間の事業者でも、いろいろ改善なり、漁業施設の方の活用ができるような仕組みにもなってきますので、そういったところを利用して、副業の方もできるような環境になるのではないかなというふうに思っております。

岸本副会長

岸本でございます。

くにびき農業法人会会長ということで、これまで法人を取りまとめて、意見を農協なり、行政なりに意見具申として発言させてもらっておりますけども、前回も担い手について申し上げましたが、やはり現場的にはなかなか担い手が

見いだせない。いろいろ行政或いは農協さんなんかにも努力してもらって農林大学校とかとの連携とか、営農塾とかそういうふうな場面できっかけ作りはしてもらってはいます。現在18組織あるわけですが、これは特に土地利用型の営農法人組織ですけど、これもやっぱりみんな共通することはですね、次代の担い手がいない。自分がやめたらどうなるか非常に皆さん不安を持っておられる。

それからもう1つは経営状況・運営状況に差があるというふうなことです。これを解決するために、法人化もちろんのこと、組織の広域化とか連携とか再編に取り組まなければならないって書いてありますが、具体的にどうそれをどうしてやっていくのかという視点が1つ欲しいなあと。私もいろいろ法人のメンバーと話しますがいい案が見つからないということで、そうこうしているうちに時間がたってきているというところです。大きな会社とか、北のほうではできて定着しつつありますが、小規模な営農法人とかはなかなかこれから継続が難しい。中には営農法人だったのですが、経営状況が悪い、担い手がいないため、そのメンバーの一部に作業の負担がかかって、いろいろその中で話し合った結果、解散した営農法人も見ておまして、そういうふうになっちゃいかんかなというふうに思っております。その辺のところの手だてを一緒に考えていって欲しいなというふうに思っております。

農業サイドでそういう状況が現状あるということ認識をしておいて欲しいなというふうに思います。地域計画とか、今後そういうふうな形で、どうその地域の農業を維持していくのかということが今後大きな課題となってくるわけですけど、しっかりその辺を地に着いた計画にしていきたい、一緒にしていきたいなというふうに思っておりますのでどうかよろしく願いいたしたいと思います。

事務局（恩田課長）

農政課の恩田です。

集落営農組織や法人の皆さんで、担い手が不足している、また経営状況も、組織によっていろいろだというお話をいただきました。また、地域計画の話し合いの中で一緒に考えていきましょうというありがたいお言葉もいただきました。

松江市は今年度から地域に入らせていただいて、地域計画のご説明を始めております。また来年度に向けて本格的に地域計画の作成についての協議を始めたいと思っておりますので、その話し合いの中で、ご一緒に検討、考えていけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

保永会長

基本理念に一応、「安定的な農林水産業の経営確立する」というのと、「農林水産業の持続的な発展を図る」というのがありますが、おそらくずっと言われ

てきて、全然解決してないというような状況だと思います。国もそうですけど、なかなか本当にうまくいっているのかどうなのかという疑問点がつくようなところがあります。

ここに2つたてるとしたら、もう少し具体的な、地域に合ったような基本方針なりを模索しないといけないでしょうし、国だと全体的な全国的な平均的なことしか言わないと思いますので、もうちょっとなんか松江市に合ったような形のやり方を考えていかないといけないのかなというふうに思っております。国の言う通りやったらちょっとうまくいかない部分も多分あると思いますので、その辺はどう考えていくかっていうところだと思いますので、ちょっとその辺は地域に合わせた形で考えていくしかないかなと思います。

新宮委員

J Aしまねの新宮です。

皆様方のご意見いろいろと確認しながらご参考にしながらというところがございますが、今J Aの方も、行政と一体となって特に農業を中心としながら、取り組みを前向きに行っていかなければならない。現実的に言うと、すぐ解決できる問題というのはなかなかございませんので、できることから少しずつというところで取組を行っている最中だということがございます。

その中で、私も意見書の中には書かせていただきましたが、ほとんどが国に対してというところですが、特に農業でいきますと生産物の価格が低いというふうになりますとどうしても担い手というのは、絶対儲からないとやらないというふうになってしまうので、半農半Xというふうな形で収まってしまう、そういったところが多くなってくるのかなと思っております。なので、その問題が解決しない限りは、なかなか難しいところかなと。しかしながら、これは松江市としてどんどん進めていかないといけないのかなというふうに考えて、感じております。

その中でJ Aもしまねになりまして、様々な取組をそれぞれの11の地区本部というところで行っております。その中に農業者と一体となりながら、特にPR面でいきますと、SNS、これを介しまして、例えば県外の方が、農業のところに朝来ていただいて、収穫作業をしていただいてご飯を食べて帰っていただくという、そういった取組を行っている。これが単発的なところがございます、できたら例えば行政の中で1つPRというところで、そのような、全体を動かしていただくような部分、農業、水産物、こういったものやっていますよというところで、1つ反映させるのも、PRの中としてはいいのかなあというところがございます。

また、一体となって行っていきたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



事務局（松浦部長）

今いろいろと委員の方々から様々なご意見ちょうだいしてありがたいと思っております。

先ほど終わりごろに岸本副会長からもご意見ございましたけども、担い手の問題というのは農林水産業、1次産業に限ったことではございませんで、いわゆる日本は人口オーナス時代に突入しております。従来と同じことをやっていたらとにかく担い手は必ず絶対数が減っていきます。人口が減っていますので。外国人を増やしていくしか、働き手を増やすという手法はございません。

そうなりますと、どうやっていくのかという話に当然なるわけですがけれども、そのためには先ほどから計画に書いてありますけれども、やはりスマート農業、いわゆる機械化をしたりそういったような従来人間の手でやっていたことを違うものを使って、効率的に省力化を図りながらやっていくということが1点。

もう1点は先ほど言いましたように、外からの労働力を確保していくと、いったようなことが2点目になります。

3点目はさっき新宮委員からもございましたけれども、いわゆる魅力ある産業、いわゆる儲かる産業にならないと、働き手が魅力を感じてその産業に就業するってことはありえないわけですね。

ところがこの農林水産業っていうのは、人が生きていくための大前提となります食を支えているっていうことがあるので、国が国策として、支援をしているといったようなことが大前提としてあります。他の産業はありません。

そういったようなことがありますので、今いろいろご議論いただいております。こういったところが足りないなどいろいろご指摘いただきましたけれども、この計画自体は、人が生きるということを営むために必要なことが全部関わっているということが基本的にありますので、どこまで書いてもどういったものやっても十分というふうなことは当然言えないわけでございます。その辺りは我々としても十分認識をしております。

そういったことで担い手等については先ほど言いましたように、何か募集すればいい、頑張れ頑張れと言ってもそれは人が集まって来ないということになりますので、先ほど言った3つの点を、複合的に進めていかないといけないというふうに思っております。

外国人労働につきましてはいろいろな国と市長である上定がトップセールスということで海外展開をしております。労働力につきましてもいろんなチャンネルを今持っております。

ご希望があれば、いろんな大使館、それからそういったような排出していただける団体、こういったところと繋がっておりますので、ご希望があればどんどんと言っていたらいいというふうに思っております。

それからもうかる産業となるべく、ここには地産地消って書いてあります

が、それも大事ですけど、やはり売っていくためには、大きなマーケットと繋がっていくことが、必須、必然なわけですし。そのためには農業でいいますとJAさんが、次のバイヤーの先、それからマーケット、こういったところが高付加価値を見出していただけるところと、いかに繋がっていただくかっていうことが大事になります。他の水産業にしても林業にしても同じことだと思っております。

そういったような観点から、来週の29日30日に、商工会議所さんと一緒にになりまして、そのバイヤーの方を直接呼びいたしましてビジネスマッチングの機会を設けております。従来は2次産業、3次産業の方々が主体となっているとそういったようなマッチングに参加をいただいておりますけれども、今年は、私が指示をいたしまして1次産業の方々にも直接、ぜひ積極的に参加してもらおうということで、十分とは言えないかもしれませんが、皆さんがたにお声がけをさせていただいていると思います。ちょっと私が想定していたよりも少なく寂しい限りですが、もう枠が大分なくなりましたけれども、初日の研修会、それから交流会、こういったところもございますので、皆さん方もお知り合いの方々にお声がけをいただきましてせっかくのビジネスチャンスでございますので、ぜひお出かけいただけたらというふうに思っております。

行政がやれることは十分とは言えません。ご批判やご指摘をいただくというのは、必要なことだし、大事なことだというふうに思っております。ただ今回集まっておりますのも個人でやってらっしゃる立場の方であり団体を担っていらっしゃる立場、多面性を持ちながら、今ご参加いただいているというふうに思っておりますので、まず、原則であるプレーヤー、その生産者というか直接やってらっしゃることが一番大事ですが、やはり取りまとめていただいている方々と行政と一緒にあって連携しながら、きちんとその情報共有を図りながらやっていきたいというふうに思っておりますので、こういった機会にかかわらず、前回も言いましたけれども、どんどん我々がもう忙しくてあばかんくらいいろいろなアドバイスを言っただき、しっかり聞く耳を持たせるようなふうにしていただけたらというふうに思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

保永会長

そういう行政としての産業振興がありますけど、人にフォーカスするといいますか、こういう暮らしがちゃんとあって、そこに人が入ってくるっていうときに、結局この人がいるからここに住もうっていうので、どんどん、集まってくるような仕組みが一番よくて、そういう引き寄せパワーみたいな言い方ですけど。それを考えるとやはり、人にちゃんとフォーカスして人の暮らしとかにちゃんとフォーカスして行ってそれで人が入ってきて増えていくっていう

<p>小笹委員</p>	<p>ことが一番よくて、それでちゃんと社会が成り立ってほしいかなというふうに思っていますので、そういったアプローチもちょっと考えてもいいかなと思います。</p> <p>私、特定地域づくり事業協同組合にも参画していきまして、これから動き出しますが、本当に担い手に関しましては、島根町、美保関町、鹿島町の3町で立ち上げて、ちょっと縛りはありますが、担い手の部分では、ちょっとでも貢献できるのかなというふうに思っているの、これから動き出す組織ではありませんが、行政さんとも手を取って、担い手不足だったりとか、新しい雇用を産んでいくという形では、お手伝いができるかと思うので、是非とも皆さんよろしくをお願いします。</p>
<p>保永会長</p>	<p>ちょっとまとめていきますが、いろんな意見がありましたけれども、ちょっとシンプルになりすぎている部分もあるので、もうちょっと深く書いた方がいい部分については2ページにわたってもいいと思いますが、そういった形でもうちょっと書いていただくということで、やっていただくことが必要かなと思います。</p> <p>SDGsが少ないところもありますので、増やせる部分があればもうちょっと増やすようなところも考えていっていただけると、主要施策⑳の鳥獣害対策とかはもうちょっといい形でまとまっていくのではないかなというふうに思います。</p> <p>主要施策⑰、⑮、⑬とかその辺りについての指摘が多かったのかなと思いますので、もう少し修正をしていく必要があるのかなと思います。</p> <p>漁業も内水面と沿岸漁業とで取り組みの方向性も違うでしょうからその辺も含めてまとめていただければと思います。</p> <p>循環型農業ももうちょっと松江市にあったようなあり方でもうちょっと考えていただくということ。</p> <p>農産物については現状からするとちょっと書き方がこれでいいのかってことが結構あったと思いますので、現状を踏まえたような書き方でもう少し検討していくということが必要なのかなというふうにまとめることができるかなと思います。</p> <p>いろいろ意見をいただいきまして、これを踏まえて、また修正をしていただくこととなりますが、また意見書でご意見を集約させていただきたいと思えます。その委員の皆さんからいただいた意見をもとに次期の計画案の修正を行います。そのときの修正については会長に一任させていただきたいと思えますけれども、それでよろしいでしょうか。</p>

< 異議なし (各委員) >

保永会長

今後の流れとしましては、先程いただいた各委員のご意見やご指摘、それから意見書を踏まえて、第2次松江市農山漁村地域活性化基本計画(案)を修正し、パブリックコメントを開始します。

パブリックコメント後の結果を踏まえた計画案を第3回松江市農山漁村地域活性化委員会で委員の皆様にお示ししたいと思います。委員の皆様よろしいでしょうか。よろしいでしょうかね。

< 異議なし (各委員) >

保永会長

そうしましたらその他につきまして事務局の方から説明をお願いできればと思います。

事務局(渡部副主任)

農政課渡部です。私からは3点ございます。

1点目は、意見書についてです。今、お配りしているのが意見書になります。本日、委員会終了後に、皆さまにメールで意見書のデータも送付させていただきます。ご意見等ございましたら、2月2日(金)までにメール等で農政課へ提出をお願いいたします。

2点目は、スケジュールについてです。先程お配りした「今後のスケジュール」をご覧ください。本日が第2回委員会です。先程申しました通り、本日から皆さまから意見書を募集させていただき、2/2(金)を〆切とさせていただきます。本日の委員会でのご意見と意見書を踏まえて次期計画(案)を修正いたします。そして、2/8(木)から3/8(金)までパブリックコメントを実施し、パブリックコメントで必要があれば修正を加えて、3/25(金)に予定している第3回委員会で最終的な次期計画(案)をお示ししたいと考えております。第3回委員会を3/25(金)の午後に予定しておりますので、ご出席くださいますようよろしくお願いいたします。

3点目は、会議録についてです。本日の会議録は、市のホームページ等に公開することとなっています。そのため、ご発言をいただきました委員の皆様と保永会長様に内容をご確認いただき、最終的には保永会長様に全体を見ていただいて議事録署名をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

< 異議なし (各委員) >

保永会長

以上をもちまして、本委員会に係る全ての議事が終了いたしました。皆様には、円滑な議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。進行を

<p>事務局（永井次長）</p>	<p>事務局へお返しします。</p> <p>保永会長には、円滑な議事運営をいただき誠にありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては長時間にわたりご審議いただきましたし、貴重なご意見を多数いただきまして本当ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第2回松江市農山漁村地域活性化委員会を閉会いたします。</p> <p>天候も悪いですのでぜひともお気をつけてお帰りくださいませ。本日はどうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">＜15時30分、閉会＞</p>
------------------	---

令和5年度 第1回松江市農山漁村地域活性化委員会 議事録

署名

会長

---